年　頭　の　辭

會　長　坂　田　昌　亮

茲に聖戰下光輝ある康德十年の新年を迎ふに當り、帝國の隆昌を壽ぐと同時に、帝國が今直面してゐる重大時局に對し會員諸君と共に聖戰目的完遂の決意を新にしたい。

大東亞戰爭勃發以來既に一年有餘、盟邦日本帝國の赫々たる戰果にも拘らず、敵米英の反擊亦熾烈なるものあり、戰は愈々豫想通り長期戰の樣相を呈して來た事を感ずるのである。かゝる長期戰に於ては戰ひ乍ら建設し又建設し乍ら戰ふねばならない。卽、外は直接軍事上の攻防兩面に對する諸施設を、內は生產力增强に對する諸施設を建設せんとするものであつて、これらは鐵道、道路、飛行場、港灣、治水、水電、拓地、都邑建設等あらゆる形式に於て土木技術がその根幹をなしてゐるのである。從つて我々がその職域を通じて行ふ方策の適不適、熱意の强弱は直ちに國家の戰力に重大なる影響ある事を確認すべきで、實に責務の重且大なる事今日の如きは未だ嘗てないのである。

茲に最も注意すべきは技術に對する研究と錬磨の振興である。とかくかゝる時代に於ては技術は末梢的應用に墮し本質的向上が疎略になる傾きがあるが事實はこれに反し、平時に比して更に資材勞力の不足、技術者擔當事務の增大或は工事の迅速完成等幾多困難なる諸條件の克服をやり遂げなければならないのであつて益々この必要を痛感するのである。惟ふに技術は常に一つの大きな繫りである。先輩の努力なくして我等の働きはなく又我等の苦心なくして將來の技術は活きない。而してこの大きい繫りを付くる所のものは我土木學會である。又總合技術の必要が最近大いに唱導せられてゐるがその總合的活動の上に多くの權威を持ち多くを主張し且つ多くを貢獻せんが爲には、どこまでも自己の專門に忠實であらねばならない。どこ迄も專門的據點に立ちて然る上にこそ總合的技術の妙用に參劃出來るものである事を銘記すべきである。

不肖今回圖ずも會員諸氏の推擧により會長の職を汚す事となつたが以上の趣旨によりどこまでも會員一同一致團結し、本學會創設の使命をかゝる時にこそ充分に果し帝國の國難に一つの威力を献げん事を希念してやまない次第である。

※　交通部技師